部会長挨拶

上ノ山　周
（横浜国立大学）

今春より第6代目の粒子・流体プロセス部会長を仰せ付かりました。
初代から先代に至るまで、歴々のご経験豊富な先生方が部会長を務めておられましたが、若輩の当方が務まるのか、一抹の不安を感じないでもありません。ただ幸いと申しますか、当方、本部会には設置当時から、ある意味、深く関与致しておりましたので、その経緯は良く理解致しているつもりでおります。
熱物質流体工学分科会を横串として、粒子に関連の深い分科会（流動層分科会・粉体プロセス分科会）と流体に関連の深い分科会（ミキシング技術分科会・気泡液滴微粒子分散工学分科会）とが縦に並び、緩くバインドしつつ全体として発展させて行くとする部会の理念は、設立当時から変わっていないものと考えます。
各分科会が、それぞれユニークな活動を継承・進化させながらも、部会として存在する意義を自ら探り、これを実践に移すことができるのか、今厳しく問われているものと考えます。
思い返せば1年前には、我が国を未曾有の大震災が襲いました。本部会と関連の深いそして解決の急がれる大きな問題が、山積しているように考えます。お題目ではなく、何ができるかをまた何をすべきかを真剣に考える時でしょう。本部会として些かなりともこのことに貢献できますよう、会員各位の叡智と創意を結集して行くことに尽瘁したいと考えます。このことが取りも直さず、先に述べました問い掛けへの1つの解答になるものと信じます。